



1999

第十一屆 「亞洲展望」研討會

民國八十八年十二月三日（星期五）～七日（星期二）
台 南 市 議 會 二 樓 會 議 廳

國立政治大學國際關係研究中心 主辦
日 本 亞 洲 公 開 論 壇 協辦

ご注意

本冊子に記載されている日程は、事前にお渡しした「御案内」の会議日程と異なる部分がありますが、こちらが最終プログラムとなりますのでご参照ください。

正誤表

- p.14 台南市主催晩餐会時間 (誤) 18:30~22:00 → (正) 18:00~21:00
- p.18 (誤) 第一セクション → (正) 第一セッション
(誤) 電気通信大学教授 → (正) (財)九州ヒューマンメディア創造センター理事長
電気通信大学名誉教授
(誤) 第二セクション → (正) 第二セッション
(誤) 市村真一 ICHIMURA, Shinichi → (正) ICHIMURA, Shinichi
- p.19 (誤) 第三セクション → (正) 第三セッション
- p.20 (誤) 江頭数馬 EGASIRA, Kazuma → (正) EGASHIRA, Kazuma
平川祐弘
現職 (誤) 福岡女学院大学教授 → (正) 福岡女学院大学教授
東京大学名誉教授
- p.23 (誤) 倉田信靖 KURADA, Nobuyasu → (正) KURATA, Nobuyasu
- p.26 杉浦正健
現職 (誤) 参議院議員 → (正) 衆議院議員
宇佐美滋
現職 (誤) 日本大学国際関係学部教授 → (正) 日本大学国際関係学部次長・教授
- p.28 辜振甫
学歴 (誤) 米ペンシルバニア大学名誉法学博士 → 米ペンシルバニア大学名誉法学博士
- p.30 (誤) 第一セクション → (正) 第一セッション
(誤) 第二セクション → (正) 第二セッション
- p.31 (誤) 第三セクション → (正) 第三セッション
李瓊莉
学歴 (誤) 米マリーランド大学政治学博士 → (正) 米メリーランド大学政治学博士

第十一屆「亞洲展望」研討會議程

台南會議

序言

第十一屆「亞洲展望」研討會於今年十二月三日至七日在台南市舉行，並以「海洋文明與亞太發展」為會議主題。從會議的地點、主題及時機來講，本次的研討會突顯了下列三點意義：

第一、這是本項研討會主辦以來，首次在台南市舉行。以往歷屆在台灣舉辦的「亞洲展望」研討會，分別是在台北市、高雄市及台中市等台灣高度現代化的都市舉行；相較之下，今年的地主台南市則是台灣的文化古都，既具現代化的活力，同時還兼具傳統之美，相信與會貴賓必會有一番不同的領悟。

第二、本次研討會舉辦之時，正逢亞洲金融危機新告一個段落，受創的東亞各國都正紛紛進行各項體制上的改革，以早日恢復經濟活力。日本在連續幾年的經濟衰退之後，也逐漸邁向經濟復甦，預期將會成為亞洲各國經濟再造，繁榮再現的火車頭。

第三、台灣在經濟危機中展現良好的經濟體質，沒有受到重大的傷害，但是「九二一」的地震災情，卻讓台灣中部的人民承受巨大的生命傷亡與財產損失。目前重建工作已經積極展開，我們預期賑災期間台灣社會所展現的力量，將會使台灣的發展步向另一個高峰。

「亞洲展望」研討會是日方中嶋校長及一批學企業界重要人士，

於一九八九年五月所發起。研討會的目的在促進中華民國與日本的民間交流管道，以推動兩國關係的進一步發展。十一年來曾分別在日本的東京、京都、橫濱、大阪及松江市等地舉行。因此這項分別在台灣與日本隔年舉行的研討會，不僅使中日雙方及各國深具代表性的貴賓得以親臨到會參與，達到增進中日雙方交流的目的，並使與會的代表有緣親炙兩國文化的精髓。

「亞洲展望」研討會舉行十一年來，正適逢中華民國政治民主化的穩定發展。這段期間我們看到了中華民國從民主轉型期進入了民主鞏固期，與國際社會同享政治主流的價值——民主競爭的機制、對自由人權的尊重，以及活潑盎然的民間社會。我們也見證了台灣經濟力量的穩健、紮實和生機。同時台灣民眾所逐漸建立的新主體意識，也同樣令人矚目。

明年，中華民國將要舉行總統大選，我們深信中華民國將更有信心面對新世紀的來臨和挑戰，也盼望本屆「亞洲展望」研討會，對我國迎向未來有所裨益。

敬祈台端能在百忙之中撥冗參與會議，共襄盛舉。

國立政治大學國際關係研究中心 謹識

中華民國八十八年十二月三日

台南會議紀要

一、會議主題：海洋文明與亞太發展

議題子題：

- (1) 海洋文明與技術網路
- (2) 日本發展中的模式與台灣的新認同
- (3) 資訊化時代的兩岸關係與亞太安全

二、會議日期：

中華民國八十八年十二月三日（星期五）至七日（星期二）

三、會議地點：

台南市議會二樓會議廳

住址：台南市永華路二段二號

電話：(06)297-6688

傳真：(06)298-7981

四、主辦單位：國立政治大學國際關係研究中心

協辦單位：日本「亞洲公開論壇」

五、會議期間大會秘書處：台南市議會三樓助理工作室

六、大會主席：辜振甫先生

中華民國代表團團長

中華民國總統府資政

台灣水泥股份有限公司董事長

財團法人海峽交流基金會董事長

七、論文、評論稿及自由發言發言條

中日雙方各三篇論文，將於會後出版專輯。敬請各位報告人、評論人及各場次討論會中發言人，將論文及評論稿之修正稿於民國八十九年一月底前，寄交台北市文山區萬壽路 64 號政治大學國際關係研究中心柯玉枝女士收。自由發言發言條則請於該場次討論會後擲交大會服務台。

八、議事規則

會議使用中文及日文發言，設有同步口譯，發言時務請簡單明瞭。論文報告時間每人十五分鐘，評論時間每人十分鐘，自由發言時間每次以三分鐘為限，發言前請舉名牌，發言後請將發言內容化作書面內容並提交大會服務台。在時間截止前一分鐘，由議事組人員按鈴提醒發言人控制時間。

九、注意事項

- (1)請務必佩帶會議識別證，憑證進入會場。
- (2)會議期間（12月3日晚餐至5日午餐）三餐由大會安排，地點請參考會議日程。
- (3)出席代表行程若有變動，請通知大會秘書處。
- (4)出席代表個人雜費（如國內外電話費、洗衣費、冰箱使用費用等）請自行付費。
- (5)會場內部及走廊全面禁煙，吸煙代表請至會議場周邊四個陽台。
- (6)四樓記者室備有市內電話乙具，影印機乙部，付費傳真機乙部。

會議日程

會議日期：一九九九年十二月三日至七日

十二月三日 【星期五】

- 08:50－13:25 日方代表團自日本羽田機場搭乘華航一〇七班機
（CI107 08:50/11:00）抵達桃園中正國際機場，轉搭
華航一九三班機（CI193 12:35/13:25）抵高雄小港機
場，通關後搭乘大型巴士前往台南劍橋大飯店
- 09:30 中方代表在台北搭乘大型巴士前往台南天下大飯店
- 16:30－17:30 第一次幹事團會議（台南大飯店七樓 C 廳）
- 18:00 中日雙方代表在下榻飯店一樓大廳集合搭車前往台南
大飯店參加歡迎晚宴
- 18:30－20:30 歡迎晚宴（立式，台南大飯店七樓 A+B 廳）

與會代表夜宿台南（南部代表除外）

十二月四日 【星期六】

- 07:40 會議代表飯店大廳集合搭車前往會場
- 08:30－09:00 會議代表報到（台南市議會二樓會議廳）
- 09:00－10:00 開幕典禮
李總統登輝先生致詞
中方團長辜振甫致詞（總統府資政、海峽交流基金會
董事長）
日方團長龜井正夫致詞（住友電氣工業株式會社顧問）
貴賓致詞：
日方：鹽川正十郎（自由民主黨顧問）
中方：郭婉容（行政院政務委員）
- 10:00－10:20 茶敘時間
- 10:20－12:40 第一場會議：
「海洋文明與技術網路」
主席：蔡政文（考試院考試委員）
報告人：合田周平（電器通信大學名譽教授）

論文題目：亞洲「技術港」之提倡
 報告人：楊永明（台灣大學政治學系助教授）
 論文題目：科學技術與海洋文明：網際網路與新世紀
 國際關係
 評論人：青木保（政策研究大學院大學教授）
 評論人：林滿紅（中央研究院近代史研究所研究員）
 12:40－14:00 午餐（台南市議會地下一樓員工餐廳）
 14:00－17:00 第二場會議：
 「日本發展中的模式與台灣的新認同」
 主席：市村真一（國際東亞研究中心所長）
 報告人：劉義周（政治大學政治學系副教授）
 論文題目：台灣民眾的新認同
 報告人：川勝平太（國際日本文化研究中心教授）
 論文題目：日本的新發展模式與台灣的新認同
 評論人：井尻秀憲（東京外國語大學外國語學系教授）
 評論人：許介鱗（台灣大學社會科學院院長）
 15:20－15:40 茶敘時間
 18:30－22:00 台南市張燦鎣市長晚宴（台南市市長公館）
 與會代表夜宿台南（南部代表除外）

十二月五日 【星期日】

09:00－11:00 第三場會議：
 「資訊化時代的兩岸關係與亞太安全」
 主席：張京育（總統府國策顧問）
 報告人：佐々淳行（評論家、前內閣安全保障室長）
 論文題目：資訊化時代的兩岸關係與亞太安全保障
 報告人：李瓊莉（政治大學國際關係研究中心第二研
 究所副研究員）
 論文題目：亞太區域安全合作與兩岸關係：資訊時代
 帶來的啓示
 評論人：劉湘濱（總統府國家安全會議處長）
 評論人：柿澤弘治（東海大學教授、前外務大臣）

10:00－10:20 茶敘時間
11:00－12:00 閉幕典禮
主席：金森久雄先生（日本經濟研究中心會長）
鄭丁旺博士（政治大學校長）
連戰副總統專題演講
致詞：中嶋嶺雄秘書長（日方）
何思因秘書長（中方）
12:00－13:30 午餐（台南市議會地下一樓員工餐廳）
13:30 中方代表自會場賦歸
13:30－18:00 日方代表小旅行
18:00－22:00 奇美實業董事長許文龍先生宴請日本代表團及
海外代表

日方暨海外代表夜宿台南

十二月六日 【星期一】

09:00－14:11 日方代表搭乘自強號 1012 列車（09:55/14:11，
山線）返台北（車上用盒餐）
16:00－17:00 日方代表拜會總統
18:30－20:30 日方答謝宴(地點：台北國賓飯店樓外樓)
20:30－21:30 第二次幹事團會議(地點：台北國賓大飯店一樓
明園三號房)

日方暨海外代表夜宿台北國賓大飯店

十二月七日 【星期二】

09:00－11:00 日方暨海外代表參觀台泥大樓三合堂
14:30 日方代表國賓飯店集合，並驅車前往桃園中正國際機場
17:20－21:20 日方代表搭乘華航一〇六班機（CI106）返日本
（羽田機場）

會議期間使用場地一覽表

(一)大會會場、辦公室及會議期間用餐地點

會 場 類 別	地 點	使 用 時 間	備 註
會議場地	台南市市議會二樓會議廳	12月4日	連續使用
大會辦公室	台南市市議會三樓助理工作室	08:00－17:00	
記者採訪室	台南市議會四樓記者採訪室	12月5日 08:00－12:00	
記者工作室	台南市議會四樓預留審查室（二）		
大會茶敘室	台南市市議會二樓咖啡廳		
代表聯誼室	台南市市議會二樓顧問室旁小會議室		
大會貴賓室	台南市市議會一樓市長貴賓室		機動使用
歡迎晚宴	台南大飯店七樓 A+B 廳	12月3日 18:30－20:30	自助餐
會議期間午餐	台南市市議會地下一樓員工餐廳	12月4日 12:40－14:00 12月5日 12:00－13:30	盒餐
台南市張燦鎣市長晚宴	台南市市長公館 （台南市南門路 239 號） TEL:06-3901008 市長室 TEL:06-2146777（公館，當日晚間使用）	12月4日 18:00－22:00	自助餐
奇美董事長許文龍先生宴請海外代表晚宴	奇美公司地下樓員工餐廳	12月5日 18:00－22:00	自助餐
日方代表團答謝宴	台北市國賓大飯店樓外樓	12月6日 18:30－20:30	桌餐
第一次幹事團會議	台南大飯店七樓 C 廳	12月3日 16:30－17:30	咖啡、點心
第二次幹事團會議	台北市國賓大飯店一樓明園三號房	12月6日 20:30－21:30	咖啡、點心

(二)住宿地點

代 表 性 質	飯店名稱	飯店地 址	飯店聯絡電話
日方代表	劍橋大飯店	台南市民族路 2 段 269 號	TEL:06-221-9966 FAX:06-221-9911
中方代表及中 方工作人員	天下大飯店	台南市成功路 202 號	TEL:06-229-0271 FAX:06-221-1133
中、日方幹事 團成員、隨員 及日方工作人 員	台南大飯店	台南市成功路 1 號	TEL: 06-228-9101 FAX: 06-2268502

「アジア・オープン・フォーラム」

第 11 回 台南会議

御案内

21 世紀に向けて、経済、安全保障など国際関係の諸側面におけるアジアの動向が世界の注目を集めるなかで、きわめて安定した発展を続けている台湾の存在がひとときわ脚光を浴びております。

すでに先進国水準に達した経済力を背景とする台湾の確固たる実在と李登輝体制下での目覚しい政治発展については、すでにご承知のとおりであります。本年 12 月のマカオ返還、年明けの総統選挙をひかえ、アジア太平洋地域の平和と安定にとって、中台関係はより一層の重要性を持って新世紀を迎えようとしています。

国内政治の面では、直接選挙を経て選出された学識豊かなステーツマン李登輝総統が、洞察力に満ちたリーダーシップを発揮してきました。このような台湾の民主政治の発展が中国大陆や周辺諸国に与える影響は、はかり知れません。同時に、台湾の人びとの新たなアイデンティティー確立の模索にも注目すべきものがあります。

しかしながら、1972 年 9 月の日台断交以来、公式な外交関係を持たない我が国との関係は、日本と台湾の経済的・人的交流が中国大陆に比肩もしくは凌駕しているにもかかわらず、きわめて不十分なものでした。

私たちは、台湾のこのような状態と日台関係の重要性に鑑み、民間の知的交流の場として 1989 年 5 月に「アジア・オープン・フォーラム」を発足させ、同年 6 月に第 1 回台北会議、90 年 7 月に第 2 回東京会議、91 年 7 月に第 3 回台北会議、92 年 11 月に第 4 回京都会議、93 年 11 月に第 5 回台北会議、94 年 10 月に第 6 回横浜会議、95 年 8 月に第 7 回高雄会議、96 年 11 月に第 8 回大阪会議、97 年 10 月に第 9 回台中会議、そして昨年 11 月には第 10 回松江会議を開催し、いずれも高いレベルで日台双方を代表するメンバーや外国人ゲストの出席を得て、実りある討論を積み重ね、多くの報道にもありましたように、内外で大きな反響を得ることができました。

今回は、日本を代表する 40 余名のメンバー(団長： 亀井正夫・住友電気工業株式会社相談役)が訪台し、「海に生きるアジア」を共通テーマに別項のようなセッションで日台双方、ひいては広くアジア全域に共通する諸問題を率直に論じ合いたいと考えております。

皆様方のご支援、ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

1999 年 8 月

「アジア・オープン・フォーラム」世話人一同

台南會議紀要

一、會議のテーマ：「海に生きるアジア」

海洋文明と技術ネットワーク

日本の新たな発展モデルと台湾の新しいアイデンティティ

情報化時代の兩岸関係とアジア太平洋の安全保障

二、会期：

1999 年 12 月 3 日（金）～12 月 7 日（火）

三、開催場所：

台南市市議会 2 階会議ホール

住所：台南市永華路 2 段 2 号

電話：(06) 297-6688

FAX：(06) 298-7981

四、主催者：国立政治大学国際関係研究センター

協賛者：日本「アジア・オープン・フォーラム」

五、会議事務局：台南市市議会 3 階助理室

六、大会議長： 辜振甫先生

中華民国側代表団団長

中華民国總統府資政

台湾セメント会社董事長

(財) 海峡交流基金会董事長

七、報告論文、評論稿と発言メモ

日華双方が発表した各三本の論文は会議終了後、論文集として出版される予定となっております。報告者と評論者は論文と評論稿の内容に修正がある場合、それを来年一月までに、担当の柯玉枝氏宛にお送りください。宛先は「台北市文山区万寿路 64 号 国立政治大学国際関係研究中心」です。

八、会議規則

- 1、会議は中国語と日本語を使用し、同時通訳で行います。発言の際、なるべく簡潔ゆっくりするようお願いします。
- 2、報告者は15分間、評論者は10分間、自由発言は3分間となっています。所定時間の1分間前にベルを鳴らして、お知らせします。
- 3、会議の発言のメモは、会議後、会場のタイムキーパーにお渡しください。

九、注意事項

- 1、会期中は名札をかならずお付けください。
- 2、会期中、食事は会議主催側が提供します。場所は会議の日程をご参照ください。
- 3、出席者は滞在日程の変更がある場合、事務局にお知らせ願います。
- 4、ホテルにおける私用諸経費（電話代、クリーニング代、ミニバーの使用費）につきましては、御自分で精算下さい。
- 5、会場内と廊下は全面的禁煙です。喫煙所は会場周辺の四箇所のパランダをご利用してください。
- 6、4階の報道関係者利用室に、市内電話機1台、コピーマシン1台、有料ファックスマシン1台を用意しております。

プログラム

共通テーマ：「海に生きるアジア」

- 会 場： 台南市市議會會議大廳
住所：台南市永華路 2 段 2 號
TEL： 06-297-6688 FAX： 06-298-7981
- 宿 泊： 台南大飯店
住所：台南市成功路 1 號
TEL： 06-228-9101 FAX： 06-226-8502
劍橋大飯店 (ケンブリッジ・ホテル)
住所：台南市民族路 2 段 269 號
TEL： 06-221-9966 FAX： 06-221-9911

12 月 3 日 (金)

- 08:50～13:25 日本側代表団訪台 (中華航空 CI107 便、8:50 羽田空港発、11:10 台北空港着)
日本側代表団、台南に移動(中華航空 CI193 便、12:35 台北空港発、13:25 高雄空港着)
高雄空港到着後、バスで台南大飯店および劍橋大飯店へ移動
- 09:30 台湾側代表バスで台南天下大飯店へ移動
- 16:30～17:30 第一回世話人会 (台南大飯店七階 C 室)
- 18:00 出席代表バスで歓迎晚餐会会場へ移動
- 18:30～20:30 歓迎晚餐会
会場：台南大飯店七階

日本側代表と中華民国側代表台南に宿泊

12 月 4 日 (土)

- 07:40 出席代表バスで会場へ移動
- 09:00～10:00 開会式

中華民國李登輝總統祝辭

中華民國側代表團長挨拶： 辜振甫

(總統府資政、海峽交流基金會董事長)

日本側代表團長挨拶： 亀井正夫

(住友電気工業株式会社相談役)

貴賓挨拶

日本側： 塩川正十郎 (自由民主党顧問)

中華民國側： 郭婉容 (行政院政務委員)

10:00～10:20 コーヒー・ブレイク

10:20～12:40 第1セッション

「海洋文明と技術ネットワーク」

議長： 蔡政文 (公務員選抜委員会委員)

報告者： 合田周平 (電気通信大学名誉教授)

テーマ： アジア「Port of Technology」の提唱

ー北九州学術・研究都市の展望

報告者： 楊永明 (台湾大学政治学部助教授)

テーマ： 科学技術と海洋文明：インターネットと新世紀の国際
関係

討論者： 青木保 (政策研究大学院大学教授)

討論者： 林満紅 (中央研究院近代史研究所研究員)

12:40～14:00 昼食

14:00～17:00 第2セッション

「日本の新たな発展モデルと台湾の新しいアイデンティティ」

議長： 市村真一 (国際東アジア研究センター所長)

報告者： 劉義周 (政治大学政治学科副教授)

テーマ： 台湾民衆の新しいアイデンティティ

報告者： 川勝平太 (国際日本文化研究センター教授)

テーマ： 日本の新たな発展モデルと台湾のアイデンティティ
ー西太平洋の海洋連邦ー

討論者： 井尻秀憲 (東京外国語大学外国語学部教授)

討論者： 許介麟 (台湾大学社会学部部長)

15:20～15:40 コーヒー・ブレイク

18:30～22:00 台南市主催晩餐会

会場：台南市長官邸

日本側代表と中華民国側代表台南に宿泊

12月5日(日)

9:00～11:00 第3セッション

「情報化時代の兩岸関係とアジア太平洋の安全保障」

議長：張京育（総統府国策顧問）

報告者：佐々淳行（評論家、元内閣安全保障室長）

テーマ：「情報化時代の兩岸関係とアジア太平洋の安全保障」

報告者：李瓊莉（政治大学国際関係研究中心第二研究所副研究員）

テーマ：「アジア太平洋地域の安全保障と兩岸関係：情報化時代がもたらす啓示」

討論者：劉湘濱（総統府国家安全会議所長）

討論者：柿澤弘治（東海大学教授、元外務大臣）

10:00～10:20 コーヒー・ブレイク

11:00～12:00 閉会式

議長：金森久雄（日本経済研究センター顧問）

鄭丁旺（国立政治大学学長）

中華民国連戦副総統講演

日本側挨拶：中嶋嶺雄・日本側代表団秘書長

（東京外国語大学学長）

台湾側挨拶：何思因・台湾側代表団秘書長

（国立政治大学国際関係研究センター主任）

12:00～13:30 昼食

13:30 台湾側代表バスで台北へ

13:30～18:00 日本側代表団小旅行

18:00～22:00 奇美実業主催晚餐会

日本側代表台南に宿泊

12月6日(月)

09:55～14:11 日本側代表团、1012号列車で台北へ移動
16:00～17:00 李登輝総統表敬
18:30～20:30 日本側答礼宴
会場：国賓大飯店 11階楼外楼 (台湾アンバサダーホテル)
20:30～21:30 第二回世話人会 (台北国賓大飯店 1階明園 3号室)

日本側代表アンバサダーホテルに宿泊

12月7日(火)

09:00～11:00 台湾水泥株式会社ビル内、三合堂見学
14:30 日本側代表团中正飛行場へ移動
日本側代表团離台 (中華航空 CI106 便、17:20 台北発、21:20 羽田着)

日本代表團：

日本代表團：

(秘書長以下，按英文姓名順序排列)

(秘書長以下，姓のアルファベット順)

團長・貴賓簡介／団長・貴賓紹介



團長／団長：亀井 正夫

KAMEI, Masao

生年月日(Birthday)：1916.04.20

學歷：東京帝國大學法學院法律系
畢業

現職：住友電氣工業株式會社顧問

學歷：東京帝國大學法學部法律學科
卒業

現在：住友電氣工業株式會社相談役



貴賓／貴賓：塩川 正十郎

SHIOKAWA, Masajuro

生年月日(Birthday)：1921.10.13

學歷：慶應義塾大學經濟學院畢業

現職：自由民主黨顧問
東洋大學理事長

學歷：慶應義塾大學經濟學部

現在：自由民主黨顧問
東洋大學理事長



副團長／副団長：金森 久雄

KANAMORI, Hisao

生年月日(Birthday)：1924.04.05

學歷：東京大學法學院政治學系畢業

現職：(社)日本經濟研究中心顧問

學歷：東京大學法學部政治學科卒業

現在：(社)日本經濟研究センター顧問



秘書長／秘書長：中嶋 嶺雄

NAKAJIMA, Mineo

生年月日(Birthday)：1936.05.11

學歷：東京大學社會學博士
(國際關係論)

現職：東京外國語大學校長

學歷：東京大學社會學博士
(國際關係論)

現在：東京外國語大學學長

致詞者・主席・報告人・評論人簡介／挨拶者・議長・報告者・討論者紹介

第一場會議／第一セクション



報告人／報告者：合 田 周 平

AIDA, Shuhei

生年月日(Birthday)：1932.06.08

學歷：東京大學工学博士

現職：電気通信大學教授

學歷：東京大学工学博士

現在：電気通信大学教授



評論人／討論者：青 木 保

AOKI, Tamotsu

生年月日(Birthday)：1938.10.30

學歷：大阪大學博士

現職：政策研究大學院大學教授

學歷：大阪大学博士

現在：政策研究大学院大学教授

第二場會議／第二セクション



主席／議長：市 村 真 一

ICHIMURA, Shinchichi

生年月日(Birthday)：1925.03.30

學歷：美國麻省理工學院博士

現職：(財)國際東亞研究中心所長

學歷：米マサチューセッツ工科大学博士

現在：(財)国際東アジア研究センター
所長



報告人／報告者：川 勝 平 太

KAWAKATSU, Heita

生年月日(Birthday)：1948.08.16

學歷：英國牛津大學現代史博士

現職：國際日本文化研究中心教授

學歷：英オックスフォード大学博士

現在：国際日本文化研究センター教授



評論人／討論者：井 尻 秀 憲

IJIRI, Hidenori

生年月日(Birthday)：1951.07.07

學歷：美國加州大學伯克萊分校

政治學博士

學歷：米カリフォルニア大学バークレ

一校政治学博士

現職：東京外國語大學外國語學院教授 現在：東京外国語大学外国語学部教授

第三場會議／第三セクション



報告人／報告者：佐 々 淳 行

SASSA, Atsuyuki

生年月日(Birthday)：1930.12.11

學歷：東京大學法學院畢業

學歷：東京大学法学部卒業

現職：評論家、前内閣安全保障室長

現在：評論家、元内閣安全保障室長



評論人／討論者：柿 澤 弘 治

KAKIZAWA, Koji

生年月日(Birthday)：1933.11.26.

學歷：東京大學經濟學部畢業

學歷：東京大学経済学部卒業

現職：東海大學教授

現在：東海大学教授

日方一般代表／日本側代表



阿 部 純 一

ABE, Junichi

生年月日(Birthday)：1952.09.25

學歷：上智大學國際關係學碩士

學歷：上智大学国際関係学修士

現職：霞山會主任研究員

現在：霞山会主任研究員



赤松 正雄

AKAMATSU, Masao

生年月日(Birthday)：1945.11.26

學歷：慶應義塾大學法學院政治系畢業 學歷：慶應義塾大学法学部政治学科卒業

現職：眾議院議員

現在：眾議院議員



江頭 数馬

EGASIRA, Kazuma

生年月日(Birthday)：1925.08.04

學歷：京都大學

學歷：京都大学

現職：霞山會理事兼日本大學講師

現在：霞山会理事、日本大学講師



濱本 良一

HAMAMOTO, Ryoichi

生年月日(Birthday)：1952.09.19

學歷：東京外國語大學畢業

學歷：東京外国語大学卒業

現職：讀賣新聞社編輯局國際部

現在：読売新聞社編集局国際部



原 富士男

HARA, Fujio

生年月日(Birthday)：1920.04.18

學歷：東北大學法文學院畢業

學歷：東北大学法文学部卒業

現職：日本亞細亞航空顧問

現在：日本アジア航空顧問



平川 祐弘

HIRAKAWA, Sukehiro

生年月日(Birthday)：1931.07.11

學歷：東京大學文學博士

學歷：東京大学文学博士

現職：福岡女子學院大學教授

現在：福岡女学院大学教授



廣瀬 克寛

HIROSE, Katsuhiko

生年月日(Birthday)：1950.10.20

學歷：明治大學商學院畢業

現職：自由作家

廣瀬事務所所長

學歷：明治大学商学部卒業

現在：フリージャーナリスト

廣瀬事務所代表



石田 浩

ISHIDA, Hiroshi

生年月日(Birthday)：1946.05.21

學歷：京都大學農學博士

現職：關西大學經濟學院教授

學歷：京都大学農学博士

現在：関西大学経済学部教授



飯田 経夫

IIDA, Tsuneo

生年月日(Birthday)：1932.09.27

學歷：名古屋大學經濟學研究科
博士課程結業

現職：中部大學大學院經營情報學
研究所教授

學歷：名古屋大学経済学研究科博士
課程修了

現在：中部大学大学院経営情報学
研究科教授



伊藤 潔

ITO, Kiyoshi

生年月日(Birthday)：1937.12.20

學歷：東京大學文學博士

現職：杏林大學國際合作研究所教授

學歷：東京大学文学博士

現在：杏林大学国際協力研究科教授



神谷 不二

KAMIYA, Fuji

生年月日(Birthday)：1927.01.06

學歷：東京大學法學博士

現職：東洋英和女子學院大學教授
慶應大學名譽教授

學歷：東京大学法学博士

現在：東洋英和女学院大学教授
慶応大学名誉教授



河田 悌一

KAWATA, Teiichi

生日年月(Birthday)：1945.05.18

學歷：大阪大學文學碩士

現職：關西大學文學院院長

學歷：大阪大学文学修士

現在：関西大学文学部部長



許 世楷

KYO, Sei-kai

生年月日(Birthday)：1934.07.07

學歷：東京大學法學博士

現職：津田塾大學名譽教授

學歷：東京大学法学博士

現在：津田塾大学名誉教授



金 美齡

KING, Alice Mei-lin

生年月日(Birthday)：1934.02.07

學歷：早稻田大學文學研究所
博士課程結業

現職：JET 日本語學校校長

學歷：早稲田大学文学研究科博士
課程修了

現在：JET 日本語学校校長



小 島 弘

KOJIMA, Hiroshi

生日年月(Birthday)：1932.09.22

學歷：明治大學文學院畢業

現職：(財)世界和平研究所

學歷：明治大学文学部卒業

現在：(財)世界平和研究所参与



興 梶 一郎

KOUROGI, Ichiro

生日年月(Birthday)：1959.11.25

學歷：東京外國語大學碩士課程修了

現職：神田外語大學外國語學系講師

學歷：東京外国語大学修士課程修了

現在：神田外語大学外国語学部講師



倉田 信靖

KURADA, Nobuyasu

生年月日(Birthday)：1937.07.20

學歷：大東文化大學畢業

現職：大東文化大學教授

日華文化協會理事長

學歷：大東文化大學卒業

現在：大東文化大學教授

日華文化協會理事長



楠田 實

KUSUDA, Minoru

生年月日(Birthday)：1924.11.7

學歷：早稻田大學商學院畢業

現職：政治評論家

楠田事務所所長

學歷：早稻田大學商學部

現在：政治評論家

楠田事務所所長



松本 健一

MATSUMOTO, Kenichi

生年月日(Birthday)：1946.01.22

學歷：法政大學文學碩士

現職：麗澤大學教授

學歷：法政大學文學修士

現在：麗澤大學教授

恵 隆之介

MEGUMI, Ryunosuke

生年月日(Birthday)：1954.02.23

學歷：防衛大學・海上自衛隊候補幹部學校

現職：作家

學歷：防衛大學校・海上自衛隊幹部候補生學校

現在：作家



宮崎 正弘

MIYAZAKI, Masahiro

生年月日(Birthday)：1946.07.19

學歷：早稻田大學英文系肄業

現職：作家、評論家

學歷：早稻田大學英文科中退

現在：作家、評論家



中兼 和津次

NAKAGANE, Katsuji

生年月日(Birthday)：1942.01.21

學歷：東京大學經濟學研究所

現職：東京大學經濟學研究所教授

學歷：東京大学經濟学研究科

現在：東京大学經濟学研究科教授



黃 昭堂

NG, Yuzin Chiautong

生年月日(Birthday)：1932.09.21

學歷：東京大學社會學博士

現職：昭和大學名譽教授

學歷：東京大学社会学博士

現在：昭和大学名譽教授



中川 昌郎

NAKAGAWA, YOSHIO

生年月日(Birthday)：1947.02.04

學歷：慶應義塾大學法學博士

現職：京都外國語大學教授

學歷：慶応義塾大学法学博士

現在：京都外国語大学教授



小川 彰

OGAWA, Akira

生年月日(Birthday)：1953.11.29

學歷：東京大學文學院法文系畢業

現職：博報堂岡崎研究所主任研究員

學歷：東京大学文学部仏文科卒業

現在：株式会社博報堂岡崎研究所
主任研究員



大宅(枝廣) 映子

OHYA-EDAHIRO, Eiko

生年月日(Birthday)：1941.02.23

學歷：國際基督教大學社會科學學系

現職：新聞工作者

學歷：国際キリスト教大学社会学科

現在：ジャーナリスト



小野 清子

ONO, Kiyoko

生年月日(Birthday)：1936.02.04

學歷：東京教育大學畢業

現職：(社)日本音樂著作權協會
理事長

學歷：東京教育大學卒業

現在：(社)日本音樂著作權協會
理事長



大谷 三佐夫

OTANI, Misao

生年月日(Birthday)：1940.05.11

學歷：九州國際大學畢業

現職：(財)九州人類媒體創造中心
事務局長

學歷：九州國際大學卒業

現在：(財)九州ヒューマンメディア
創造センター事務局長



佐々木 繁雄

SASAKI, Shigeo

生年月日(Birthday)：1929.8.16

學歷：中央商業學校畢業

現職：亞東聯誼會理事長

學歷：中央商業學校卒業

現在：亞東聯誼會理事長



佐瀬 昌盛

SASE, Masamori

生日年月：1934.12.21

學歷：東京大學教養學院畢業

現職：防衛大學教授

學歷：東京大學教養学部卒業

現在：防衛大學教授



末次 一郎

SUETSUGU, Ichiro

生年月日(Birthday)：1922.10.1

學歷：佐賀縣立佐賀商業學校

現職：安全保障問題研究會代表

學歷：佐賀縣立佐賀商業學校

現在：安全保障問題研究会代表



杉浦 正健

SUGIURA, Seiken

生年月日(Birthday)：1934.07.26

學歷：東京大學

現職：參議院議員

學歷：東京大学

現在：參議院議員



高橋 正基

TAKAHASHI, Masaki

生年月日(Birthday)：1969.10.02

學歷：神戸大學經濟學院畢業

現職：東京財團

學歷：神戸大学經濟学部卒業

現在：東京財団



竹中 一雄

TAKENAKA, Ichio

生年月日(Birthday)：1929.09.26

學歷：東京大學經濟學院

現職：（財）國民經濟研究協會顧問

學歷：東京大学經濟学部

現在：（財）国民經濟研究協會顧問



武山 泰雄

TAKEYAMA, Yasuo

生年月日(Birthday)：1923.02.01

學歷：一橋大學畢業

現職：武山事務所董事長

學歷：一橋大学卒業

現在：武山事務所代表



宇佐美 滋

USAMI, Sigeru

生年月日(Birthday)：1933.01.02

學歷：東京大學國際學碩士

現職：日本大學國際關係學院教授

學歷：東京大学国際学修士

現在：日本大学国際関係学部教授



若 林 寛 之

WAKABAYASHI, Hiroyuki

生年月日(Birthday) : 1943.01.23

學歷：關西學院大學經濟學碩士

學歷：関西学院大学経済学修士

現職：日本貿易振興會經濟情報部長

現在：日本貿易振興会経済情報部長

中方團長・貴賓簡介／台灣側団長・貴賓紹介



團長／団長：辜振甫

KOO, Chen-fu

生年月日(Birthday)：1917.01.06

學歷：台灣大學法學士

美國賓州大學榮譽法學博士

現職：總統府資政

(財)海峽交流基金會董事長

台灣水泥公司董事長

學歷：台北帝國大學卒業

米 ペンシルバニア大学名誉法学
博士

現在：總統府資政

(財)海峽交流基金會董事長

台灣セメント株式会社会長



貴賓／貴賓：郭婉容

KUO, Shirley W. Y.

生年月日(Birthday)：1930.01.25

學歷：神戸大學經濟學博士

現職：行政院政務委員

學歷：日本神戸大学經濟學博士

現在：行政院政務委員



副團長／副団長：黃世惠

HUANG, Shi-hui

生年月日(Birthday)：1926.05.07

學歷：美國華盛頓大學醫學博士

現職：慶豐集團董事長

台北醫學院腦神經科兼任教授

學歷：ワシントン大学医学博士

現在：慶豐グループ董事長

台北医学院腦神經科兼任教授



副團長／副団長：辜濂松

KOO, Jeffrey L. S.

生年月日(Birthday)：1933.09.08

學歷：美國紐約大學碩士

菲律賓迪拉薩大學榮譽博士

現職：總統府國策顧問

中華民國工商協進會理事長

學歷：ニューヨーク大学修士

ラサール大学名誉博士

現在：總統府国策顧問

中華民國工商協進会理事長



副團長／副 団長：鄭 丁 旺

CHENG, Ding-wong

生年月日(Birthday)：1942.02.15

學歷：美國密蘇里大學會計學博士

現職：政治大學校長

學歷：ミズーリ大学会計学博士

現在：政治大学学長



副團長／副 団長：許 文 龍

SHI, Wen-long

生年月日(Birthday)：1928.02.25

學歷：台南高工畢業

現職：奇美實業股份有限公司董事長

學歷：台南高等工業専門学校卒業

現在：奇美実業株式会社取締役代表



秘書長／秘書長：何 思 因

HO, Szu-yin

生年月日(Birthday)：1956.11.01

學歷：美國加州大學聖塔巴巴拉
分校政治學博士

現職：政治大學國際關係研究中心
主任

學歷：カリフォルニア大学サン タ
バーバラ校政治学博士

現在：政治大学国際関係研究センター
主任



副秘書長／副秘書長：李 國 雄

LEE, Kuo-shiung

生年月日(Birthday)：1929.12.11

學歷：美國愛達荷大學政治學博士

現職：政治大學國際關係研究中心副
主任

政治大學政治學系教授

學歷：アイダホ大学政治学博士

現在：政治大学国際関係研究センター
副主任

政治大学政治学科教授

致詞者・主席・報告人・評論人簡介／挨拶者・議長・報告者・討論者紹介
第一場會議／第一セッション



主席／議長：蔡政文

TSAI, Cheng-wen

生年月日(Birthday)：1940.05.23

學歷：比利時魯汶大學社會學博士

現職：台灣大學政治學系教授

考試院考試委員

學歷：ルーベン大学社会学博士

現在：台湾大学政治学科教授

公務員選抜委員会委員



報告人／報告者：楊永明

YANG, Philip

生年月日(Birthday)：1964.07.13

學歷：美國維吉尼亞大學國際法與
國際組織博士

現職：台灣大學政治學系助理教授

學歷：米バージニア大学国際法と
国際組織博士

現在：台湾大学政治学科助教授



評論人／討論者：林滿紅

LIN, Man-houng

生年月日(Birthday)：1951.02.12

學歷：美國哈佛大學博士

台灣師範大學歷史學博士

現職：中央研究院近代史研究所
研究員

學歷：米ハーバート大学博士

台湾師範大学歴史学博士

現在：中央研究院近代史研究所
研究員

第二場會議／第二セッション



報告人／報告者：劉義周

LIU, I-chou

生年月日(Birthday)：1948.04.12

學歷：美國密西根大學政治學博士

現職：政治大學政治學系副教授

學歷：米ミシガン大学政治学博士

現在：政治大学政治学科副教授



評論人／討論者：許介麟

HSU, Chieh-lin

生年月日(Birthday)：1935.09.01

學歷：東京大學法學博士

現職：台大社會科學院院長

學歷：東京大学法学博士

現在：台湾大学社会科学部部長

第三場會議／第三セクション



主席／議長：張京育

CHANG, King-yuh

生年月日(Birthday)：1937.04.27

學歷：美國哥倫比亞大學政治學博士

現職：總統府國策顧問

政治大學外交系教授

學歷：米コロンビア大学政治学博士

現在：總統府国策顧問

政治大学外交学科教授



報告人／報告者：李瓊莉

LEE, Chyungly

生年月日(Birthday)：1964.07.27

學歷：美國馬里蘭大學政治學博士

現職：政治大學國際關係研究中心

第二研究所副研究員

學歷：米マーリラン大学政治学博士

現在：政治大学国際関係研究センター

第二研究所副研究員



評論人／討論者：劉湘濱

LIU, James

生年月日(Birthday)：1964.07.27

學歷：美國陸軍戰爭學院

現職：國家安全會議處長

學歷：米陸軍戦争学院

現在：国家安全会議所長

中方代表團一般出席代表名單

丁仁方	成功大學政治系副教授
于乃明	政治大學日文系教授
于盟勝	成功大學政治系副教授
山下新太郎	日本交流協會台北事務所所長
方 山	政治大學國際關係研究中心第二研究所研究員（新聞組）
方仁惠	民主進步黨顧問
王乃三	成功大學醫學院院長
王大進	大大集團
王友仁	中國文化大學政治系教授
王世豪	台北駐日經濟文化代表處秘書（海外觀察員）
王克紹	王克紹診所
王重泉	年輕貴族百貨
王家貞	台南市議員
王慶輝	成功大學政治系副教授
任耀廷	俞榮實業股份公司董事長
朱文清	台北駐日經濟文化代表處新聞組組長
朱松柏	政治大學國際關係研究中心第二研究所研究員
江振昌	政治大學國際關係研究中心第四研究所副研究員
呂明毅	紫陽工程顧問公司總經理
何幸樺	永增企業
何瑞藤	台灣大學日文系教授
何耀坤	台南市光華女中秘書
余憲章	余外科
吳立夫	泛亞國際通商股份有限公司總經理

吳名芳	台南市議員
吳神添	海峽兩岸交流遠景基金會特約研究員
吳東野	政治大學國際關係研究中心研究員兼第一研究所所長
吳南河	新生綜合醫院院長
吳炳德	東陽實業
吳美滿	台南市政府市政顧問、台南市女性權益促進會理事長
吳祖田	政治大學國際關係研究中心第二研究所助理研究員
吳新興	成功大學政治系教授
吳道雄	大豐富行銷顧問(股)公司董事長
吳達雄	台南市議員
宋學文	中正大學政治系副教授
宋鎮照	成功大學政治系教授
李天佑	台南市議員
李文正	台南市議員
李成家	國大代表、美吾華關係企業董事長
李伯岳	成功大學政治系教授
李金振	成功大學政治系教授
李勝彥	中央銀行業務局長
李高慈美	台南市仁濟醫院常務理事
李雲溥	台南市議員
沈大枝	大亞電纜
沈柏昌	私立南榮工商專科學校校長
沈柏青	高雄醫學大學教授暨附設醫學肝膽科主任
沈義方	台美文化交流基金會董事長
周叔夜	台南市政府市長顧問
周明德	台南市議員

林文程	中山大學大陸研究所教授
林志行	日本綜合研究所主任研究員
林易煌	台南市議員
林俊憲	台南市議員
林炳利	台南市議員
林益充	林總建設
林益謙	企業界
林富美	企業界（陳由豪董事長夫人）
林義久	大阪 Union Motor Co., Ltd. 董事長（海外觀察員）
林碧炤	總統府副秘書長
林蒼生	統一企業
邱坤玄	政治大學東亞研究所所長
邱振銘	外交協會會長
邱莉莉	台南市議員
邱稔壤	政治大學國際關係研究中心第二研究所副研究員
邱榮金	淡江大學應用日語系專任講師（隨團口譯）
門間理良	日本交流協會台北事務所研究員
侯博明	台南紡織
姜榮宗	前外交協會副會長
姜榮慶	台南市議員
施克敏	中央通訊社社長
施治明	台南市議員
柯玉枝	政治大學國際關係研究中心第二研究所助理研究員（執行秘書）
洪玉鳳	台南市議員
洪墩謨	中山大學社會科學院院長
柿澤未知	日本交流協會台北事務所研究員

范利民	政治大學國際關係研究中心研究員兼第四研究所所長
韋信輔	韋心臟科
唐瑞明	台南市議員
翁金山	成功大學教授
翁政義	成功大學校長
翁茂鐘	佳和集團
翁朝正	台南市議員
翁嘉禧	中山大學中山學術中心
翁榮一	台南市議員
翁鴻山	成功大學副校長
高安邦	政治大學經濟系主任
高李麗珍	宗教界（高俊明牧師夫人）
高俊明	台灣基督教長老會牧師
高秋香	教育界
涂照彥	日本名古屋大學教授
涂韶芳	台南市議員
陳鵬仁	中國國民黨中央黨史委員會主任委員
陳燕南	台北駐日經濟文化代表處文化組長
陳勳明	台南市議員
陳儔美	政治大學國際關係研究中心第二研究所助理研究員（副執行秘書）
陳德昇	政治大學國際關係研究中心副研究員兼合作交流組組長（接待組）
陳進義	台南市議員
陳進益	台南市議員
陳健章	府都建設
陳哲男	台南市副市長
陳唐山	台南縣長

陳柏宏	台南市議員
陳俊雄	陳胃腸科
陳俊朵	詠信建設股份公司
陳亭妃	台南市議員
陳邦雄	台南市文史協會常務理事
陳伯志	政治大學國際關係研究中心第四研究所助理研究員（翻譯組）
陳由豪	東帝士集團董事長
陳世姿	台北國際商業銀行
陳水來	台南市議會主任秘書
陳文俊	中山大學政治系兼所長
陳一鶴	陳一鶴診所
陳 勁	成功大學政治系副教授
郭榮豐	台南市議會機要秘書
郭朝武	台南市議員
郭國詮	郭婦產科
郭信良	台南市議員
郭金水	東方工商專科學校附設專科進修學校教務組長
郭和元	台南市議員
許淑楨	國賓大飯店董事長、士林電機廠(股)公司董事長
許重勝	前新樓醫院院長
許至椿	台南市議員
許永河	成功大學政治系副教授
許木樹	台南市議員
莊輝濤	成功大學政治經濟研究所副教授
莊銘耀	台北駐日經濟文化代表處代表
莊玉珠	台南市議員

黃競涓	中山大學政治系副教授
黃清溪	日本拓殖大學教授（海外觀察員）
黃崑虎	永光物產股份有限公司董事長
黃郁文	台南市議會議長
黃茂雄	東元電機公司董事長
黃自進	中央研究院近代史研究所副研究員
黃石城	總統府國策顧問、中華文化復興總會秘書長
黃玉雲	台南市議員
黃天橫	台南市文史獻委員、台日交流促進會
黃仁村	黃仁村醫院
黃丁川	台南市議員
黃 紀	中正大學政治系教授兼主任
曾怡仁	中山大學政治系副教授
曾永賢	總統府國策顧問
彭榮次	台灣輸送機械股份公司董事長
彭堅汶	成功大學政治經濟研究所教授兼通識教育中心主任
喬一名	政治大學國際關係研究中心第三研究所助理研究員
張讚合	成功大學政治經濟研究所教授
張燦鑒	台南市長
張隆義	政治大學國際關係研究中心第二研究所研究員（翻譯組）
張家祥	海峽兩岸交流遠景基金會特約研究員
張純明	企業界
張哲郎	政治大學文學院院長
張炳楠	淡江大學日文系教授
張炳堂	企業界
張保民	成功大學社會科學院代院長

張金石	張金石小兒科診所院長、台南市經理人協會創會理事長
楊合義	政治大學國際關係研究中心研究員兼駐東京特派員
楊克智	
楊祥發	中央研究院前副院長、中央研究院院士
楊景斌	台南市議員
楊黃美幸	台南市政府市長室主任
葉俊良	台南市議員
葉瑞山	台南市光華女子高中校長
鄒念祖	政治大學國際關係研究中心第二研究所研究員（新聞組）
廖光生	總統府國家安全會議諮詢委員
廖坤榮	中正大學政治系副教授
廖淑馨	政治大學國際關係研究中心第四研究所研究員（議事組）
廖達琪	中山大學政治系教授
熊自健	政治大學國際關係研究中心研究員兼第三研究所所長
管明正	第一國際株式會社會長（海外觀察員）
趙甦成	政治大學國際關係研究中心第四研究所助理研究員
趙廣生	台南市議員
劉阿蘇	台南市政府顧問
劉益昌	台南市議員
蔣明東	台南市議員
蔡 瑋	政治大學國際關係研究中心第二研究所副研究員（新聞組）
蔡武義	台南市議員
蔡得勝	中國大陸研究月刊編輯委員
蔡啓清	東海大學政治系教授
蔡淑惠	台南市議員
蔡焜燦	偉詮電子董事長

鄭清泉	前外交協會會長
鄭勝輝	鄭眼科
賴國洲	中國國民黨青年工作會主任
駱錦明	台灣工業銀行總經理
戴育毅	國防管理學院副教授
戴國輝	中國文化大學文學院史學系兼任教授
謝文真	成功大學政治經濟研究所副教授
謝敏捷	中正大學政治系副教授
謝森展	中華民國日本研究協會理事長
鍾從定	靜宜大學企管系主任
顏裕庭	台南市立醫院院長
羅吉煊	台灣綜合研究院董事長
嚴震生	政治大學國際關係研究中心第一研究所研究員
蘇囿戩	台南市議員
蘇進安	長榮中學校長
顧鴻壽	交通大學電子資訊研究中心兼任副教授

中、日 幹事團／世話人リスト

中方／台湾側

團長／団長	辜振甫
副團長／副団長	黃世惠
	辜濂松
	許文龍
	鄭丁旺
秘書長	何思因
副秘書長	李國雄
顧問	曾永賢

日方／日本側

團長／団長	亀井正夫
副團長／副団長	金森久雄
秘書長	中嶋嶺雄
世話人	合田周平
	飯田経夫
	武山泰雄

中、日秘書處／事務局 実行委員会リスト

中方／台灣側	
秘書長	何思因
副秘書長	李國雄
執行秘書	柯玉枝
副執行秘書	陳儔美
秘書	李德成
議事組	組長沈曼卿，組員廖淑馨、李孝全
接待組	組長陳德昇，組員劉發全、許文良、趙敏宜
新聞組	組長鄒念祖，組員蔡瑋、方山
翻譯組	組長張隆義，組員陳伯志
財務組	組長方星彰、組員王曼章、王家茹、王瑤瑛
總務組	組長高騰蛟、組員林清和、李蘊清、吳俊炫、林全成、 陳建和、高田、黎治中、林盈楨、石山陽
出版組	組長溫慧梅，組員徐碧茵、黃純珊
文書組	組長陳正男，組員茅慧珠、黃婉卿、朱清香、王淑嫻
隨員名單	
辜晏宏	鹿港民俗文物館副館長
葛保羅	台灣水泥公司董事長秘書
劉石豐	台灣水泥公司秘書
黃章富	中國信託商業銀行襄理

王金迎	慶豐環宇董事長室
王金明	慶豐環宇董事長室
楊明盛	奇美實業股份有限公司秘書
曾宜君	行政院秘書
日方／日本側	
大宮司義光	SIMUL 國際會議公司
吳意雯	台灣富士通株式會社
邱淑貞	東京外國語大學大學院博士後期課程
山崎直也	東京外國語大學大學院博士後期課程
貞村直子	SIMUL 國際會議公司
同步翻譯人員／同步通譯者	
千葉俊明	SIMUL 國際會議公司
大森喜久惠	SIMUL 國際會議公司
及川勝洋	SIMUL 國際會議公司

日方新聞媒體／日本側マスコミ

清水勝彦	朝日新聞台北支局長
安江伸夫	朝日電視台
河田卓司	讀賣新聞台北支局
岡田充	共同通信台北支局
近藤伸二	每日新聞社台北支局
辻田堅次郎	時事通信社台北支局

矢島誠司	產經新聞台北支局長
林純一	NHK 台北支局長
高橋政陽	朝日電視新聞中心海外部主任
風間元治	筑摩書房編輯部
早田健文	台灣通信日文雜誌社發行人
駱文森	朝日新聞台北支局

「アジア・オープン・フォーラム」

第11回台南会議

連 戦 副総統

貴 賓 挨 拶



1999

1999年12月5日

社会とグローバル・コミュニティ

ご来賓の皆様、ご列席の皆様、

本日は「アジア・オープン・フォーラム」にお招きいただきありがとうございます。
まず最初に、海外からお見えになったご来賓の皆さんに歓迎の意を表するとともに、
皆様のあいだで活発な交流が行われるよう希望いたします。

科学技術と情報化時代の到来に伴い、21世紀には急激な変化が見られそうです。
世界的なつながりがさらに密接になり、人的交流がさかんに行われ、いわゆる「地球村」の夢が必ず実現するものと思います。一方、近い将来に、人と人のあいだの空間的距離はますます縮小するはずですが、その心理的距離と社会的距離は必ずしも縮小するとはかぎりません。

過去を振り返って見ますと、第2次世界大戦以降、世界各国は都市化と近代化の過程で経済的繁栄と物的生活の質的向上を享受してきましたが、人々の総体的な幸福感と満足感は必ずしも満たされたとは言えません。社会学者が繰り返し指摘しているように、都市化と近代化が進むにつれ、人と人の距離はますます拡大し、人と社会、そして人と人のあいだに存在する疎外感はますます深刻化しているように思われます。これは「都市化」に伴う必然的な現象と言えましょう。

国連が一九九五年に発表した社会憲章は、世界各国にあらゆる側面から社会的発展に取り組むよう呼びかけるとともに、各国に「コミュニティを中心とした」恒久的に発展する社会を築き上げるよう求めています。私は、この考えに賛同し、台湾においても常にコミュニティ活動を推進してきました。長年にわたり私が感じているのは、「社会の基礎は末端で築かれ、末端の活力はコミュニティに存在する」

ものであり、また社会がいかに変遷し、政府の施策が変更されようとも、「コミュニティは永遠に人々の生活の中心であり」、「コミュニティは永遠に人々の生活の質を高くむ出発点である」ことだけは決して変わらないということです。コミュニティを中心とする発展なくして、将来のグローバルな発展はあり得ません。本日ここに「アジア・オープン・フォーラム」が開催されるにあたり、私は、去る9月21日に台湾で発生した震災を例に取り、コミュニティ中心の社会を構築することがいかに重要なものであるかを皆様といっしょに考えてみたいと思います。

先般の台湾の震災による被害はかなり大きなものでした。しかし台湾の人々は思いやりにあふれ、災害を免れた多くの人々が自発的に浄財や人力を提供するなど、コミュニティの力がいかんなく発揮されました。また、多くの民間団体や宗教組織が自発的に被災地における作業や復旧工事に取り組んでいます。

被災地に対する政府の協力・支援策は、コミュニティを基礎とした（community-based）政策理念に基づくものであり、被災地の計画や被災地の復興といったハード面でも、また被災地住民の社会的・心理的面での回復といったソフト面でも、我々は一貫してコミュニティ活動の3大原則に基づいて努力してきました。コミュニティ活動の3大原則とは次のようなものです。

第1は、被災地の地域住民の力を結集してコミュニティの再建事業に参画することです。「コミュニティによる参画の原則」に基づいて「コミュニティの意識」を高め、コミュニティ全体の建設を推し進めています。

第2は、コミュニティの資源を結集してコミュニティの生活を確保し、再建事業を推進することです。我々の災害救済策は、被災地住民が土地を提供して仮設住宅やコミュニティ用プレハブの建設を促し、また被災地の優秀な人材が被災地

住民の家庭の再建や子供たちの心のケアに努めるよう呼びかけるものであり、コミュニティの人材、物資、資金を十分に結集し、「現地化」「コミュニティ化」を中心にコミュニティの再建に取り組んでいます。

第3は、コミュニティの自助自立を促し、被災地の恒久的発展を支援することです。この震災で、災害救済の第1段階では救急と慰問、「物資と資金」面での支援が中心でしたが、第2段階の短期的なコミュニティの生活確保と第3段階のコミュニティの再建において、我々は、被災地の教育、経済、社会等の発展を全面的に支援し、被災地の早期自立と恒久的発展に協力することを強調しています。

さらに重要なことは、「コミュニティの相互援助」の精神のもとに、世界各国の国際救援組織が被災地救援のために我が国に駆けつけてくれたことです。このことを通じて、私はグローバル・コミュニティ活動とは何かを痛感しました。日本が

らは救援組織が駆けつけ、多くのプレハブ住宅を建設し、さらに阪神大震災での多くの貴重な経験を提供していただきましたが、こうした日本の対応に我々は非常に感動しました。

世界各国のこれまでのコミュニティー中心(community-centered)のコンセプトをみると、例えば、シンガポールでは国営住宅コミュニティーの発展が重視され、日本では文化面におけるコミュニティー全体の構築が重視され、米国では伝統的な民間コミュニティーの意識と民間組織が重視されています。これらのグローバル・コミュニティー(global community)のさまざまな発展形態により、21世紀には全体的に人々の生活の質が向上し、また、グローバル・コミュニティーによる相互援助が今後ますます密接かつ活発に展開されるものと確信しています。

私は、ご列席の皆様とともに、21世紀のコミュニティーづくりに大きな期待を寄

せていきたいと思ひます。たとどこにしようとも、グローバル・コミュニティのために共に努力し、グローバル・コミュニティによる相互援助を歓迎しようではありませんか。最後に、ご来賓の皆様のご健康とご多幸を祈念して、私の挨拶とさせていただきます。

「アジア・オープン・フォーラム」

第11回台南会議

連 戦 副総統

貴 賓 挨 拶



1999

1999年12月5日

社会とグローバル・コミュニティ

ご来賓の皆様、ご列席の皆様、

本日は「アジア・オープン・フォーラム」にお招きいただきありがとうございます。
まず最初に、海外からお見えになったご来賓の皆さんに歓迎の意を表するとともに、
皆様のあいだで活発な交流が行われるよう希望いたします。

科学技術と情報化時代の到来に伴い、21世紀には急激な変化が見られそうです。
世界的なつながりがさらに密接になり、人的交流がさかんに行われ、いわゆる「地球村」の夢が必ず実現するものと思います。一方、近い将来に、人と人のあいだの空間的距離はますます縮小するはずですが、その心理的距離と社会的距離は必ずしも縮小するとはかぎりません。

過去を振り返って見ますと、第2次世界大戦以降、世界各国は都市化と近代化の過程で経済的繁栄と物的生活の質的向上を享受してきましたが、人々の総体的な幸福感と満足感は必ずしも満たされたとは言えません。社会学者が繰り返して指摘しているように、都市化と近代化が進むにつれ、人と人の距離はますます拡大し、人と社会、そして人と人のあいだに存在する疎外感はますます深刻化しているように思われます。これは「都市化」に伴う必然的な現象と言えましょう。

国連が一九九五年に発表した社会憲章は、世界各国にあらゆる側面から社会的発展に取り組むよう呼びかけるとともに、各国に「コミュニティを中心とした」恒久的に発展する社会を築き上げるよう求めています。私は、この考えに賛同し、台湾においても常にコミュニティ活動を推進してきました。長年にわたり私が感じているのは、「社会の基礎は末端で築かれ、末端の活力はコミュニティに存在する」

ものであり、また社会がいかに変遷し、政府の施策が変更されようとも、「コミュニティは永遠に人々の生活の中心であり」、「コミュニティは永遠に人々の生活の質を高くむ出発点である」ことだけは決して変わらないということです。コミュニティを中心とする発展なくして、将来のグローバルな発展はあり得ません。本日ここに「アジア・オープン・フォーラム」が開催されるにあたり、私は、去る9月21日に台湾で発生した震災を例に取り、コミュニティ中心の社会を構築することがいかに重要なものであるかを皆様といっしょに考えてみたいと思います。

先般の台湾の震災による被害はかなり大きなものでした。しかし台湾の人々は思いやりにあふれ、災害を免れた多くの人々が自発的に浄財や人力を提供するなど、コミュニティの力がいかんなく発揮されました。また、多くの民間団体や宗教組織が自発的に被災地における作業や復旧工事に取り組んでいます。

被災地に対する政府の協力・支援策は、コミュニティを基礎とした（community-based）政策理念に基づくものであり、被災地の計画や被災地の復興といったハード面でも、また被災地住民の社会的・心理的面での回復といったソフト面でも、我々は一貫してコミュニティ活動の3大原則に基づいて努力してきました。コミュニティ活動の3大原則とは次のようなものです。

第1は、被災地の地域住民の力を結集してコミュニティの再建事業に参画することです。「コミュニティによる参画の原則」に基づいて「コミュニティの意識」を高め、コミュニティ全体の建設を推し進めています。

第2は、コミュニティの資源を結集してコミュニティの生活を確保し、再建事業を推進することです。我々の災害救済策は、被災地住民が土地を提供して仮設住宅やコミュニティ用プレハブの建設を促し、また被災地の優秀な人材が被災地

住民の家庭の再建や子供たちの心のケアに努めるよう呼びかけるものであり、コミュニティの人材、物資、資金を十分に結集し、「現地化」「コミュニティ化」を中心にコミュニティの再建に取り組んでいます。

第3は、コミュニティの自助自立を促し、被災地の恒久的発展を支援することです。この震災で、災害救済の第1段階では救急と慰問、「物資と資金」面での支援が中心でしたが、第2段階の短期的なコミュニティの生活確保と第3段階のコミュニティの再建において、我々は、被災地の教育、経済、社会等の発展を全面的に支援し、被災地の早期自立と恒久的発展に協力することを強調しています。

さらに重要なことは、「コミュニティの相互援助」の精神のもとに、世界各国の国際救援組織が被災地救援のために我が国に駆けつけてくれたことです。このことを通じて、私はグローバル・コミュニティ活動とは何かを痛感しました。日本が

らは救援組織が駆けつけ、多くのプレハブ住宅を建設し、さらに阪神大震災での多くの貴重な経験を提供していただきましたが、こうした日本の対応に我々は非常に感動しました。

世界各国のこれまでのコミュニティー中心(community-centered)のコンセプトをみると、例えば、シンガポールでは国営住宅コミュニティーの発展が重視され、日本では文化面におけるコミュニティー全体の構築が重視され、米国では伝統的な民間コミュニティーの意識と民間組織が重視されています。これらのグローバル・コミュニティー(global community)のさまざまな発展形態により、21世紀には全体的に人々の生活の質が向上し、また、グローバル・コミュニティーによる相互援助が今後ますます密接かつ活発に展開されるものと確信しています。

私は、ご列席の皆様とともに、21世紀のコミュニティーづくりに大きな期待を寄

せていきたいと思っています。たとどこにしようとも、グローバル・コミュニティのために共に努力し、グローバル・コミュニティによる相互援助を歓迎しようではありませんか。最後に、ご来賓の皆様のご健康とご多幸を祈念して、私の挨拶とさせていただきます。

第十一屆「亞洲展望」研討會
貴賓演講

社會與全球化下的社區

中華民國副總統

連戰

中華民國八十八年十二月五日
中華民國 台南市

社會與全球化下的社區

各位貴賓、各位女士、先生：

個人很高興受邀來參加今天的「亞洲展望」研討會，首先歡迎國外嘉賓來訪，也盼望大家有更多的交流。

隨著科技化與資訊化時代的來臨，二十一世紀勢必是一個快速變遷的世紀，全球的互動將會更密切，人際的往來將會更頻繁，所謂「地球村」絕對是可以實現的夢想；可以預見的，未來人與人之間的空間距離將會愈來愈小，但是，人與人之間的心理距離與社會距離則未必會更小。

個人覺得，二次世界大戰以來，世界各國在都市化和現代化發展的過程中，享受了經濟繁榮和物質生活品質的提升，但是人的總體幸福感和滿足感並未提

升。社會學家一再提示我們，都市化和現代化的結果，人與人的距離似乎愈來愈遠，人與社會，人與之間，的疏離感似乎愈來愈嚴重。可以說是「都市化」所付出的代價。

聯合國一九九五年頒布的社會憲章就曾經呼籲全球應致力於社會的全方位發展，要求各國應「以社區為中心」來創造永續發展的社會，我非常支持這個觀點，也在台灣一直推動社區的工作。多年來，我一直有一個很深的感觸，那就是「社會的基礎在基層，基層的活力在社區」，無論社會如何的變遷，政府的施政如何轉型，唯一不變的就是「社區永遠是人民生活中心」，「社區永遠是營造人民生活品質的基點」。未來全球的發展絕不可能脫離社區為中心的發展。因此今天大家在這裡召開「亞洲展望」研討會，個人願意以台灣最近發生的九二一震災為例，來分享以社區為中心的建設理念之重要性。

這次台灣的震災相當嚴重，但是台灣的人民相當有愛心，許多非災區的人自

動自發，有錢出錢，有力出力，充分展現豐沛的社區力量，許多民間團體及宗教組織，還自動自發的認養災區服務和災區重建工作。

政府部門對災區的協助與照顧政策，也是以社區為基礎（community-based）的政策理念為依歸，無論是硬體的災區規劃或災區重建，或是軟體的災區居民社會暨心理重建，我們一直本著三大社區工作原則在努力：

第一，結合災區地區居民參與社區重建工作；基於「社區參與原則」，凝聚「社區意識」，來推動社區總體營造工作。

第二，結合社區資源推動社區安置與復健工作；我們的賑災政策鼓勵災區居民捐獻土地蓋臨時屋或社區組合屋，鼓勵災區精英投入災民的家庭重建和小孩心理重建的工作，充分結合社區的人力、物力、財力資源，推動「在地化」、「社區化」的社區重建工作。

第三，促使社區自助自立，協助災區永續發展；我們的震災強調賑災第一階段

是救急及慰助，以「物質及金錢」協助為主，但第二階段的短期社區安置和第三階段的社區重建，我們則協助災區教育、經濟、社會等全面發展，促使災區很快的自己站起來並且能夠永續發展。

更重要的，這一次世界各國國際救援組織更發揮了「社區互助」精神，前來我國協助災區救援工作，更讓我感受到什麼是全球化的社區行動，以日本為例，有實際救援組織來，也提供許多組合屋，更提供許多寶貴的阪神震災經驗給我們，我們非常感動。

環顧過去世界各國的社區中心（community-centered）觀念，例如，新加坡模式相當重視國宅社區的發展，日本模式則相當重視文化面的社區總體營造，美國模式則相當借重傳統民間社區意識和民間組織，我相信這些全球化社區（global community）的發展工作類型，將會為二十一世紀人民總體生活品質帶來更深刻的願景。未來，我也相信全球化的社區互助行動將會更密切、更蓬勃。

在此，我願與在座的各位一起以創造二十一世紀的社區為宏願，讓我們不分在哪裡，共同為全球化社區而努力，也為全球化的社區互助行動而祝福。最後也敬祝各位貴賓健康快樂、事事如意！